

A-42 唾液の濾紙電気泳動法的検索による 知見について

早大教育 伊藤秀三郎
○平岡 文江

1. 食品、及び、食事の質の差による混合唾液の成分の変化をみる。特に米食・麦食における、 α -アミラーゼと β -アミラーゼの出現を観察する。

2. 試料：生活環境のいた健康な男女の混合唾液を用いた。実験装置：エルマ光学の濾紙電気泳動装置を用い、10mA・5時間の定電流法で行なった。

濾紙：東洋濾紙 No. 51A を使用した。

緩衝液：ペルナルソーダ8.82g, 酢酸ソーダ4.68g, N/10 酢酸 80.80cc を蒸留水で 2l としたもの (pH=8.6 $\mu=0.045$) である。

透析は、唾液の沈澱物を先ず除き、透析膜に入れ、4°C以下の40%アラビアゴム溶液中に12~14時間浸し、1/5~1/10濃度にした。

泳動は、濾紙の原点上に、試料 0.04cc を均一的につけた。泳動終了後、100~105°Cで20分間乾燥した。

定量は、Bromphenol blue (B. P. B. 0.05g, 塩化第二水銀 1.00g, , 氷酢酸 2.00cc を蒸留水で100ccにする) で20分間染色し、脱色、風乾し、パラフィンで固定した後、Extinction 法で行なった。

3. 唾液の成分は、摂取する食物、性や個人により異なり、又、個人における日中の変動も大きい。